

個人山行報告

◎ドロミテ・チマグランデ南壁（報告者：Y.H）
2018/6/20 K, Y.H



昨日入手したクラシックルート集を参考に、ここで一番人気だという、チマグランデ南壁に挑戦した。高さ450m、登攀3時間、懸垂下降2時間半かかるルート、とのこと。そのスケールの大きさに、心が躍った。

トポを頼りに分かりにくい取り付きを探し回ると、超急傾斜の雪渓の中に発見した。アイゼンなしで登るなんて考えられないほどで、わたしにはほぼ垂直に見えた。その時点で帰ろうかと思ったが、「雪が怖いならクライミングなんてやめちまえ」とK先輩に叱咤され、泣きながら這い上がった。

ようやく辿り着いた取り付きから見上げたチマグランデの山頂は、遙か彼方の雲の中。登り始めには支点は見当たらず、そのまま約50mほど緊張して登った。最初の支点を発見してビレイ体制が整ってからは、Kさんがリードで物凄いスピードで登っていった。猿かな？セカンドで追う私に、遅い遅いと猿みたいな人が上から文句を言っている。



いや待てよ、たしかに遅いはずだよと、ふと背中の中の荷物のことを思い出した。なんで私はこんなに重い荷物を背負ってるんだ？ガストروبに、ラーメンセット2人前に、座布団に……。この辺で荷物をデポしたいと何度か相談するも「クラシックルートに行きたいという奴が、荷物を背負えなくてどうするんだよ。もうクライミングなんてやめちま(略)」の炸裂で断念。猿め。

ガツンガツン！の爆音とともに、何度も落石が起きる。浮き石も雪渓もあって、緊張の連続。しばらくして、先行パーティが懸垂下降で降りてきた。ガイドのようで、猿、もとい、Kさんが話しかけると、今の時間からの登頂は厳しいよ、と言われる。

それも全て、私が雪渓で泣き喚いたせいだとKさんに非難されたが、そういう罵詈雑言（猿語）にも耐性がついてきた。

チマグランデの半分ほどを登攀したところで、ルートが分からなくなり、しばし彷徨う。また他のガイドとすれ違い、もう降りる時間だよ、と言われる。

そのとき12時過ぎ。ここは21時まで陽が落ちない。ガイドの助言はもったもだが、どうも悔しいので、もう少し先まで行ってみる、と今までで最も怖そうな場所にKさんが取り付き、支点なしの切り立った壁をトラバースして、私の視界から消えた。しばらくして「ここ、今日いちばん怖いよ」という声が聞こえた。猿にもようやく人間らしい感情が戻ったようだ。ここぞとばかりに、「じゃあもう諦めようよ」と提案すると、Kさんが「駐車場のゲート閉鎖時間も気になるしね」と敗退を受け入れた。

初のクラシックルート。壮大な景色の中でのクライミング。十分に楽しんだ。懸垂下降も緊張の連続だったが、「下山したら、イタリアだし

晩飯にピザを食べよう」というのをモチベーションに、4回ほど懸垂して下山。

下山しながら、「その晩飯、オレは500円しか出さないからな！（オレがこんなに頑張ったんだから、お前が奢れ。でなければクライミングなんてやめ 略）」とKさんが5回ほど繰り返していた。500円、出して貰おうじゃん。2本あったロープを分担して持つところを、下山時も雪渓歩きが怖くて、ロープをKさんに押し付けた。

下山後、改めてそそり立つ岩山を見上げて、「ここにIさんを連れてきたいね」と2人で話をした。Iプロの参戦で、登れるルートが何十倍にも増えるに違いない。来年にでも実現しますように。